

3・11

『 1 連続
2 ラ
年 ジ
前 オ
の ド
わ ラ
た マ
し
へ
』

全
4
回

キャプチャー1 【3月6日（月）放送】

タイトル

3.11 連続ラジオドラマ

『12年前のわたしへ』 第一回

M：F1

大人の風「12年前のわたしへ。私は今でも、さざえ堂が好きだよ。自分がどこにいるのかわからなくなる感覚、不思議だよ。生きるってことも、そうなのかも」

M：CO

SE：駅前ターミナルの雰囲気

SE：軽トラのクラクション

祖母「（OFF）おい、風。ここだよー」

SE.. 軽トラのドアの開閉音。

風「（息が乱れている）ばあちゃん。いつも
会津若松の駅まで、お迎えありがとね」

SE.. 軽トラの走行音

SE.. 薄いラジオ音

祖母「今日は休みか？金曜日だぞ」

風「上級生の卒業式、サボっちゃった」

祖母「いい。まだ中2だべ。わがの式に出れ
たら、花マルだ」

DJ「（カーラジオの音質）今日は2011年

3月11日です。今日の福島は概ね晴れ

（FO）」

大人の風「中学生の頃の私は、一人になりた
いとき、自宅の大熊から会津のばあちゃん
の家に、よく遊びに行っていた」

SE.. うすく流れるラジオの音楽 FI

風「（ひとり言のように）未来なんて、誰かが
決めてくれないかな。あっ：飯盛山」
祖母「さざえ堂。寄ってくか」

大人の風「小さい時から飯盛山にある、さざ
え堂に登るの好きだった」

SE.. 遠くでカラスが鳴く声

SE.. 雪がずり落ちる音

※冬のさざえ堂周辺の雰囲気

祖母「畑にいつからな。昼過ぎに迎えに来っ
から」

風「（さざえ堂の中で反響する声）うくん」

SE.. 遠ざかっていく軽トラのエンジン音

SE.. さざえ堂に響く風の足音

風「ばあちゃん、さざえ堂でよく昔話してく

れたな」

SE.. 遠くから次第に迫ってくる地響き

祖母「（耳元で昔話を語る感じON）遠くから、腹に響く地響きが近づいてきてな」

凧「えっ何？」

SE.. 真下でうなる地響き

SE.. 木材がきしむ音

SE.. 雪や土砂が崩れる音

祖母「（耳元で昔話を語る感じON）立ってらんにいほどの揺れが、ずっと続くようだな。こっちさあつた物が、たちまち、あつちさいって：」

凧「登ったと思っただら、降っていて、降ったと思っただら、登っていて（FO）」

SE.. さざえ堂の壁に体を打ちつける音

凧「いってて。地震があつて…どうしたんだっ
け？」

SE.. 小鳥の鳴声

SE.. 雪が溶けて流れる音

※ 小春日和の雰囲気

和子「本当にいるよ…突然で悪いけど、親友
に頼まれてんだ。凧ちゃん、福島を案内す
るよ。あ、ごめん、私、和子」

凧「どうして私の名前…でも、祖母が迎えに
来るんで」

和子「まあ、大丈夫だからさ（笑）どっから
来たの？」

凧「大熊町です」

和子「そうか、避難指示が解除になって、大
熊に戻ったんだ。若松にあった分校に通っ
てたの？」

凧「避難指示…解除？…分校？」

和子「本当に震災後のこと、知らないんだ。
見てみ。スマホの操作、分かる？」
和子「はい。『3月11日さざえ堂に、12
年前から来た中学生の私がいるから、震災
後の福島を案内して。頼むね。風より』
って、どういうことですか？」
和子「風ちゃん、本当に2011年から来ち
やっただの」

キャプチャー 2 【3月7日（火）放送】

タイトル

3.11 連続ラジオドラマ

『12年前のわたしへ』 第二回

風 「私は大熊町の中学2年生、風。会津にあるさざえ堂で地震に遭い、意識を失ってしまったんだ。和子さんという人に教えてもらったんだけど、今は12年後の2023年なんだって。信じられる？」

SE：市街の雰囲気

SE：風と和子の歩く音

和子 「震災直後の福島市もさ、人通りが少なくて、さびしいもんだったよ」

風 「（独り言）町におしゃれな個人のお店が沢山出来た…（和子へ）確かに未来かもです」

和子「（笑）さあ着いた。ここが福島物産館。
コラッセふくしまだよ」

SE.. 物産館の雰囲気

SE.. 野菜の入ったビニール袋を取る音

凧「祖母も直売所に野菜卸してます」

和子「最近は、放射性物質検査の表示は、付
けなくていいんだな」

凧「検査って、何ですか？」

和子「震災の時にさ、浜通りで原発事故が起
きたんだよ」

凧「うちの近所にある発電所」

和子「震災直後の福島の野菜とかは、科学的
な検査が安心材料だったんだ」

凧「ばあちゃん、ずっと大切にしていたのに。
畑の土や水」

和子「安全確認のために検査は続いているけ
ど、対象の品目は減っているようだね」

（沈黙が流れる）

和子「（風の視線に気づく）カバンのこれ？
このクマちゃんかわいいでしょ。会津木綿
で作ったあいくーっていうの。大熊から避
難してきた庄子さんって人が作ってんだ」

風「…かわいい」

庄子「（OFF）またよろしくお願いします」

和子「あっ庄子さん、納品に来てたんだ」

庄子「和子ちゃん、お久しぶり」

和子「庄子さん、ちょっとお茶っこしない？」

SE.. 店内の雰囲気 CO

風「大熊で何をなされていたんですか？」

庄子さん「ニットデザイナーです。毎日、編
み物をしていました。会津に避難してから
何かもの作りしたいなと思って。やるから
には本気でやりたいなと思ってアトリエを
立ち上げました」

風「あいくーを作り始めたきっかけてなん
ですか？」

庄子さん「会津ってすごいよね。400年も
の歴史がある会津木綿があつて。これでオ
リジナルのクマを作ろうと思ったの」
和子「あいくーって名前、かわいいですね」
庄子さん「私たちを受け入れてくれた会津と
大熊の空はつながっている。そういう思い
を込めてね」

SE.. お店の雰囲気 FI

庄子「あいくーはちゃんと立つの。私たちの
自立の意味もあるの」

凧「自立：か」

庄子「出会えた記念に、プレゼントするね。

この子に浜通りの空を見せてあげて」

凧「ありがとうございます」

和子「（お茶を飲み干す）震災後は色々あつ
た：本当に。震災がなかったらって時々考
えるけど、それより震災後に出会えた人た

ちに、会えていなかったと思うと…ね」

SE : お店の雰囲気 CO

風「そう言ってだまってしまった和子さんに、

私は声をかけられなかった」

キャプチャー 3 【3月8日（水）放送】

タイトル

3.11 連続ラジオドラマ

『12年前のわたしへ』 第三回

風 「私は風、中学2年生。12年後に、タイムスリップしてきたみたい。そこで見た震災後の福島：これって本当のこと？」

SE.. 車の走行音

和子 「こいつ、大学の後輩で真平。一緒にドライブしたいって言うからさ」

真平 「風ちゃん、ちっす。よろしく」

DJ 「（ラジオの音）祈念式の会場へ訪れる方の列は、途切れることがあります」

真平 「（そっけなく）そっか、今日はあの日か？」

風 「あの真平さん、さつき物産館で買った山

菜、少しもらってくれませんか。量多くて。
どうぞ、あっ」

SE.. 車の床に落ちる山菜

真平「（感情のない口調）俺、料理しないから。うん……。ちよっと心配だし、ごめんな」

凧「今はそうなってしまったんですね。私、知らないから」

真平「俺も実は分からない……。というか知ろうとしなかった。東京にいても、進学で福島に来て」

凧「もしよければ、一緒に知ってくれる人がいると、心強いです」

真平「いい機会かもな。凧ちゃんと勉強してみるか」

和子「それなら、いい知り合いがいるよ」

SE.. 伝承館の職員のご案内

SE.. 観覧者の声

※ 伝承館の雰囲気

和子「わかな、よろしくね」

横山さん「ようこそ。東日本大震災原子力災害伝承館へ。スタッフの横山和佳奈です。これから、語り部をするから聞いていってね」

SE.. 祈念館のエントランスの雰囲気 FO

横山さん「（語りの最後の方 FO）最後に皆さんにお伝えしたいことがあります。まず1つ目、地震が来たら安全な場所へ身を隠す。2つ目、避難の情報が出たら、すぐに避難をする。これだけは覚えて帰ってくださいね。ありがとうございました」

SE.. 観客からの拍手

SE.. FO

真平「震災後は、どう過ごしていました？」
横山さん「小学校6年生の時に被災をして、避難先の郡山の中学校に進学したんです。同級生からどこの小学校出身のなのと聞かれるんですけど、浪江町から来たとは言いません。」「
横山さん「避難してきたって答えるのは空気を悪くしてしまうような気がして言えなかったんです。今も、いつまで私たちは被災者なのか、どうすれば復興したことになるのか、考えています」

SE..施設の雰囲気 FI

和子「真平、わかなの話聞いてどうだった？」
真平「俺は自分の見たこと聞いたことを信じることになりますよ：山菜もらおっかな」
凧「（笑う）」
和子「さて大人の凧はまだかな。連絡した

「ただけど」

真平「来てるみたいっすよ。先輩、入口こっち、こっち」

SE.. 施設の自動ドアが開く音

和子「中学の時から風は風だった。案外楽しかったよ」

大人の風「：和子にしか頼めなかった」

風「初めまして：風さん」

大人の風「初めまして、風ちゃん。：不思議

な感じね」

風「ほんと：そうですね」

大人の風「浜通りを案内するね」

キャプチャー 4 【3月9日（木）放送】

タイトル

3.11 連続ラジオドラマ

『12年前のわたしへ』 最終回

風「震災直後からタイムスリップしてきた私。
大人の私と出会い、浜通りを案内してくれ
ることになったんだ」

SE：浜辺の波の音

風「あいくー、これが浜通りの空と海だよ。
町は新しくなって、友だちと行ったお店も、
なかったよ」
大人の風「今の町を見て、もっとショックを
受けると思った」
風「正直、戸惑ってます。けど…」
大人の風「けど？」

風「じゃあ私はこれから、どうしたいのって
考えちゃって…」

大人の風「風ちゃん：今いい顔してる」

風「震災後って、私どんな生活をしていたん
ですか？」

大人の風「手紙書いたんだ。浜の方で読んで
よ」

SE.. 浜辺を歩く風の足音

風「これで、未来に悩むことはないんだ。手
紙の未来を生きればいい」

SE.. 風、立ち止まる

SE.. カモメが鳴き声

SE.. 海水浴客の声

※夏の海水浴場の雰囲気

風「あれ、よく遊んだ夏の海。日差しが強く
てクラクラする：（エコー）風さん、どこ」

SE.. 壁に打ち付けられる音

SE.. 小鳥が鳴声

SE.. 雪が溶けて流れる音

※小春日和の雰囲気

凧「いたた：さざえ堂だ。戻れたの？」

さざえ堂の人「さざえ堂の者ですが、大丈夫
ですか」

凧「（前のセリフ食い気味に）今日は何年、
何月何日ですか」

さざえ堂の人「2011年3月11日ですよ」

凧「戻ったよう。（思い出して）凧さんから
の手紙：うん、ちゃんと持ってる」

SE.. 便箋を開く音

凧「12年前のわたしへ。」

私は今でも、さざえ堂が好きだよ。（凧と
大人の凧の声（SE）自分がどこにいるのか分

からなくなる感覚、不思議だよね」

M : F1

大人の風「生きるってことも、そうなのかも。震災後、ずっと思ってた。けど最近はさ、今まで頑張った自分や福島みんなに花マールあげたいんだ。12年前のわたしからはどう見えたかな？ 風ちゃんにしか作れない、明日があるはずよ。」

12年後のわたしより「風「ずるいな。未来のこと教えてくれると思っただのに。けど、ありがと。風さん」

M : FO

祖母「(OFF) おくい風、迎えさ来たぞ。ラーメンでも食うべ」
風「はくい。(風M) 今、私がここにいます。と。何だか、すごいことだと思えてきた。」

私も福島の人も、
そう誰でも。
ですよね。
：

終
わ
り